

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立

小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 「知識及び技能」では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」に課題がみられる。 「思考力・判断力・表現力」は、「話すこと・聞くこと」の全国と同じ程度の正答率だった。 「説明文の趣旨や物語の情景や人物の心情を読み取り、自分の考えを適切な文章でまとめて書く力」に課題がある。
	よくできた問題	「話すこと・聞くこと」の問題にて、互いの立場や系を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題
	努力が必要な問題	「読むこと」の問題にて、人物像や物語の全体像を具体的に想像しながら答える問題
算数	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の領域「数と計算」「変化と関係」は、全国と同じ程度の正答率だった。 学習指導要領の領域「図形」「データの活用」は、全国平均値を下回っている。 習得した知識を生かして答えを導き出すことはできるが、習得した知識や技能をどのように使ったかを説明する力に課題がある。
	よくできた問題	「数と計算」に関する問題にて、二つの数の最小公倍数を求める問題
	努力が必要な問題	「図形」に関する問題にて、示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目して平行四辺形であることを判断する問題
理科	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 知識・技能に関する問題は全国平均値に近づいている。 「粒子」「地球」を柱とする領域は全国平均値に近づいている。 「エネルギー」「生命」を柱とする領域は全国平均値を大きく下回っている。選択式や短答式の思考・判断・表現を問う問題は答えることができる。
	よくできた問題	「地球」を柱とする領域にて、冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ問題(選択式の問題) 「粒子」「地球」を柱とする領域にて、鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものか書く問題(短答式の問題)
	努力が必要な問題	「地球」を柱とする領域にて、冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめを選ぶ問題(選択式の問題) 「粒子」「地球」を柱とする領域にて、鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものか書く問題(短答式の問題)

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 「1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」の質問に対し、2時間以上3時間未満の児童が約40%いる。また、家庭でのスマートフォンや携帯などの使い方について、70%の児童が約束をしたことを守っていると回答。情報モラルについての学習活動や、家庭への啓発など引き続き行っていく。 「自分のよいところがありますか。」の質問に「当てはまらない」と回答した児童が全国平均の約2倍多い。「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦していますか。」の質問に対して否定的な回答が60%以上いる。もっと児童に自信をもたせ、色々な事に挑戦しようとする気持ちを高めていく学習活動の工夫が必要である。 学校でのICTの活用の頻度の質問に対して「週に1回以上」がほとんどだった。様々な教科で活用し、教師も児童もタブレット端末を扱う技術が向上している。 国語、算数、理科共に「好きですか。」という質問に否定的な意見が多いが、「大切である。」「将来役に立つ。」と思っている児童が多い。児童の興味・関心を高め、分かる喜びを味わわせることができるような経験を増やしていく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> 日頃の学習活動や学習時間以外の時間(朝の会や帰りの会)など、各学年、発達段階に応じた自分の考えや思いを話す時間を作る。(朝の1分スピーチ、帰りの会の今日の素敵な人紹介、読書活動の後の感想を話すなど)また、「発表の仕方」を掲示し、常に意識できるようにする。 特別活動や学校行事、委員会活動など様々な場面において、一人ひとりの児童が活躍する場を設定し、達成感や充実感を味わわせる。 朝の裁量の時間「松北タイム」(15分間)では、曜日で教科を決め、基礎学力の定着を図ることができる課題に取り組ませるようにする。 国語科では、好きな本を紹介する活動を取り入れ、物語の全体像や登場人物の心情をつかませたり、好きな表現に注目させたりすることで読む力の向上を図る。 算数科では、図形を構成する要素に着目し、図形の意味や性質を基に、一つの図形に対して、作図の仕方を多面的に考える指導に重点を置く。 理科では、自分で発想した実験の方法と追加で分かった事実を基に、実験の方法を工夫・改善して行い、よりよい考えを導き出そうとするなど自分の考えを整理したり深めたりすることに重点を置く。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> 児童の情報教育や家庭に向けた情報モラルの啓発などを、学校通信やHPなどで発信していく。また、PTAとも連携しながら児童と保護者が一緒に学ぶことができる「スマホ・ケイタイ安全教育」の開催に努める。 家庭学習では、「松北家庭学習3点セット」①漢字②計算③音読を毎日、実施する。また、学校では手本となる児童の自主学習ノートを校内に掲示し、児童の学習意欲を高めている。
